

管長さんの年頭あいさつ

総本山金剛峯寺第四百十二世座主
高野山真言宗 管長

松長 有慶

高野山教衆



丁亥新春をお慶び申し上げます。

初日の出と共に宗内諸大徳、また全国の大師信徒の皆さまの一層の御多幸ならびに御繁栄を御廟前に至心に祈念させていただきました。

昨秋、はからずも一宗の御推挙により、総本山金剛峯寺第四百十二世座主・高野山真言宗管長に就任させていただきました。

もとより積徳の功に欠け、非才の身であることを十分承知いたしておりますが、大師の御遺訓を戴し、真言密教の宣布と令法久住のため尽瘁する覚悟をさらに固めております。

私が高野山大学に入学したのは終戦の翌年でした。国土は荒廃し、食糧も物資も極端に乏しい時代でした。

この頃、人々は欧米の先進文化を取り入れるのに汲々とし、ややもすれば日本古来の伝統文化の価値をないがしろにする傾向が強かったように思います。

お大師さまの教えについても一般にほとんど注目されず、いつも悔しい思いをしていたことをはっきり覚えております。

大学卒業後、宗団当局のご援助を得て、学問の道に進ませていただきました。そのおかげで弘法大

師のみ教えに近づく機会を得ましたが、学べば学ぶほどお大師さまの教えのすばらしさに気付き、心から敬服するようになりました。

高野山大学と専修学院で、ほぼ半世紀の間、真言宗の子弟教育と研究にたずさわってききましたが、今思い返せば、私の生涯の仕事の大部分は大師の偉大さを、若い学徒と真言宗の僧侶や檀信徒の方々にお伝えすることにあつたように思われます。

今、日本だけではなく、世界中でさまざまな暗黒の面があらわになってきております。人々は今後どのように生きるべきか、その道しるべを見失い、さまよい続けています。

お大師さまの教えには、混迷の二十一世紀を生きる人々の心の支えとなる材料が無数に潜んでいま

す。今後、折に触れてその点を明らかにして、ご理解を得ていきたいと考えております。そして檀信徒の方々が、自信と誇りをもって大師のみ教えを信じ、生きる指標にすえていただければと願っています。

またそれだけではなく、大師の教えのすばらしさを世界に向けて発信できるように努力したいと、初夢を見ているのです。